

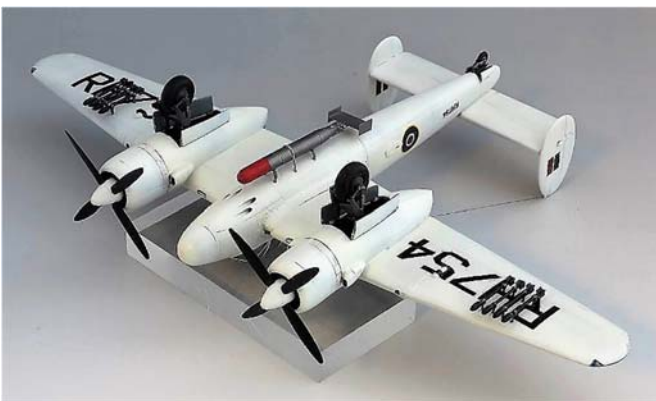
ワケ カタチには理由がある(60)

Shape follows
Function & Taste

～ブリストル・ブリガンド(Brigand)攻撃機



[ポーファイターより一回り大型↑]



本機、ブリガンドは、ブリストル社がポーファイター後継の攻撃機として開発した機体ですが、初飛行は1944年12月で、第二次世界大戦には間に合いませんでした。上の写真のように、ポーファイターとならべると一回り大きく、機敏さはなくなり、戦闘爆撃機という印象ではなくなりました。戦後就役した本機は、アジアやアフリカの英国植民地で使用され、地味な活動に従事しました。それでも、魚雷を積んだ姿は、機首背面の機関砲とともに本来の艦船攻撃任務を担う機体として様になり、ポーフォートから続くブリストル社の血筋を感じさせます。ブリストル社のお家芸ですが、同じ主翼を共通とするバックマスター練習機、バックingham輸送機が作られ、三兄弟として使用されました。なお、ブリガンド(Brigand)とは「山賊」の意味で、大型になって多少野暮ったさもある機体に合った名前のように思います。

【模型について】

チェコの VALOM 社製 1/72 のキットです。良作ですが、機首背面の機関砲の銃口が気になったので(キットの銃口タイプの機体も存在しています)、ポリパテで埋めてドリルで穴を開け直しています。思えば、「駄っ作機コンテスト」のインタビューで、当時の私はブリガンドが最も好きと答えていたのですが(25年前!)、このときハラム Vac というバキュームキットしかなく、制作をためらっていました。ようやく数年前にこのキットが出て、完成させることができました。(中川裕幸 2022年4月)

